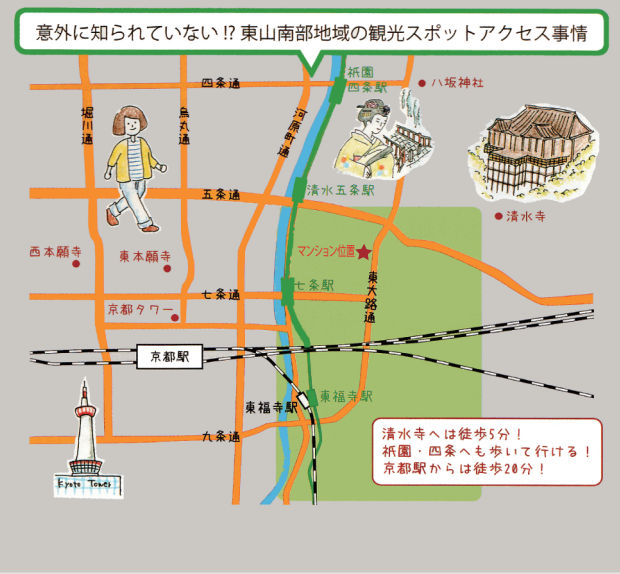


東山南部周辺イラストマップ

周辺は東山区でも特に緑豊かな自然に囲まれた閑静な地域です

東山南部地域（五条通りより南）は国立博物館、妙法院門跡、三十三間堂、智積院、泉涌寺、東福寺など有名観光スポットを中心にたくさんが見所があり、マンション近くもフォーシーズンズ、ハイアット、シックスセンス等の外資系高級ホテルも軒を連ね、京都を代表する観光スポットの一つです。



東山南部の地域紹介

平安時代以前からはじまる、京都のはじまりと今を知る町

京都市東部にある、東山連峰と鴨川に挟まれた地域。鴨川から東山連峰に向かって緩やかに傾斜した土地は山林などの緑に囲まれ、豊かな自然に恵まれた市街地が南北に細長く広がっている。古くから、京都の歴史・文化の要所として位置付けられ、天皇家や豊臣家、徳川家など、時の権力者と深いかわりのある寺社や、信仰の中心地も数多く残されている。

このあたりは、794年の平安建都以前より、古代朝鮮などから渡来した氏族・八坂氏の影響によって発展をはじめている。「八坂の塔」で知られる法観寺はその頃に建てられたといわれている。

平安時代になると、七条には後白河法皇の宮廷（御所）である法住寺殿が、六波羅（五条大路から七条大路一帯）には平家一族の邸宅が建てられた。三十三間堂が創建されたのもこの頃。政治の拠点として人々が集まるようになっていったのである。

やがて武士の時代へと移り変わると、鎌倉時代の出先機関「六波羅探題」が置かれたり、桃山時代には豊臣秀吉によって一大加蓋が築かれるなど、京都の最も重要な町の1つとみなされていった。

江戸時代には住宅地としても注目され、豪商の屋敷や、清水焼の工房が建ち並んでいく。この時既に、現在見られるような町並みが形成されたのだと考えられている。

明治時代になると、京都もいち早く近代化を進めていた。その最たる象徴ともいえる帝國京都博物館（現在の国立京都博物館）がこの地に開館。東山が文化的な面でも重要なポジションを占めるようになったのである。

明治43年（1910年）には京阪電鉄が開通。大阪・天満橋～京都・五条間が結ばれ、鴨川沿いの地域だけでなく、京都の町が大きく様変わりする要因となった。

今日に至るまで、時代を超えて重要な地域であり続けた東山・南部地域。角を曲がるたびに奥深い魅力に出会えるこの町を、くまなく散策してみてください。